

「小内」便り 第33号 平成27年1月

特定非営利活動法人 小内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小内4579-3
安佐小内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

昨年（8月20日）近くの安佐南区、安佐北区で発生した集中豪雨による大規模土砂災害や御嶽山の噴火、各地で頻発する地震、又、12月の大雪など自然災害が発生、自然の前に人間の非力を感じました。災害は「忘れたころにやって来る」ではなく「今日来るかも知れない」その心構えと備えが必要でしょう。

こうした非常時には先ず「自分の身は自分で守る」こと、近くの人が助け合う、「近助力」の大切さを学びました。「遠い親戚より近くの他人」と言われるように、いざ！という時はやはり近くにいる人が一番です。この「近助力」は普段の付き合い、お互いの信頼関係に醸成されます。さて今年には明治、大正、昭和、そして平成と140年続いた小内小学校閉校という歴史的転換期を迎えます。広島市は始めて総務省の「地域起こし協力隊」を取り入れ、中山間地域振興に小内地区をモデル地区に指定して支援する、という。国も地方創生担当大臣を置き、安倍総理は全国津々浦々までアベノミクスの効果を届ける、と約束。小内にもこうしたフォローの風（追い風）が吹いています。小内をどうしたら良いか、「明日の小内」に希望を持って私たち住民自ら、知恵と汗を流しましょう。

会員、住民そして応援して下さる多くの関係者に感謝、今年が良い1年でありますように。

目次

ハウス食と農と環境体験教室（今年度最終回）	P 2
農村体験ツーリズム門松づくり	P 2
小内情報	P 3
（1）小内小学校閉校	P 3
（2）キリン企業の森、整備終了	P 4
（3）荒神小学校OB来訪	P 4
（4）しめ縄づくり（寿永会）	P 5
（5）とんど焼き（自治会連合会）	P 5
（6）資源ごみ回収について（自治会連合会）	P 6
（7）3月までの行事予定	P 6
集落の現況、自治会紹介①（横山谷自治会、黒瀬自治会）	P 7
統計資料	P 8
編集後記	P 8

ハウス食と農と環境体験教室（今年度最終回）

11月16日、今年度最後の「ハウス食と農と環境体験教室」が行われ15組46名が参加、さつま芋掘りや餅つき、ピザ焼き、水車の里を見学した。
最後に終了式、渡辺理事長から子供に終了証書が渡され、感想を述べて全日程を終了した。
参加した親子は新米のお土産などをもらい、思い出を胸に小河内を後にした。



農村体験ツアー、門松づくり体験

12月19日、門松づくり体験を行い8組28名が参加した。
地元スタッフの指導を受けながら、門松づくりに挑戦、正月準備をした。
出来た門松1対はそれぞれお土産として持ちかえった。



小河内情報

① 小河内小学校閉校

1、閉校と跡地等の利用

今年3月、小河内小学校は児童数の減少から閉校、140年の歴史に幕を閉じ、27年度飯室小学校に統合される。閉校後の跡地、跡施設は広島市立大学芸術学部の創作活動の場と地元の資料室や交流の場等に活用することが検討されている。

広島市は被爆70年を機に被爆100年を見据えて取り組む「まちづくり先導事業」の骨子案を発表。中山間地では小河内地区をモデル地区に指定、総務省の「地域起こし協力隊」を取り入れ、支援する。(1月14日中国新聞)

2、閉校式と記念行事

3月22日(日)10時から閉校式が同校体育館で行われる。引き続き地元自治会の主催で記念行事が行われ、自元で活動している舞踊、音楽、大正琴などの発表会、懇親会などが予定されている。

3、記念誌発行

140年の歴史を記録、住民や卒業生などから思い出の原稿を募集、5月頃記念誌を発行予定。これに伴う費用捻出のため、広島県共同募金のギフト付き寄付金を自治会やOB等を通じて募集中。3月末までに所定の振込用紙で郵便局に振り込む。

ご協力をお願いします。尚、振り込み用紙は各自治会を通じて配布してありますが、ご希望の方は小河内集会所にありますので、集会所へご連絡下さい。



3月末で閉校予定になっている小河内小学校
その後、小河内のまちづくりの核になる予定

② 「キリン企業の森」整備終了、社会貢献

民間企業が市有林整備に取り組む「企業の森里親制度」第一号となった三菱グループ（キリンビールマーケティング、三菱商事）社員24名が好天に恵まれた11月15日、黒瀬にある市有林整備に最後の汗を流した。当日は他に里山整備士4名、広島市森林整備課課長他3名、地元からも3名参加、安福自治会連合会長がお礼の挨拶をした。平成22年3月、同グループは広島市と企業の社会貢献の一環として5年かけて同市有林を整備する協定をしていた。今年度で契約終了する。三菱グループの皆さん、ありがとうございました。



③ 荒神小学校OB来訪

11月13日、市内在住の沖野エミ子さん（80歳）が知人と共に小河内を訪問、昭和20年4月から原爆投下後まで安楽寺に疎開、小河内小学校に通ったとのこと。69年振りに安楽寺や小河内小学校を訪ね、又同級生であった増田正幸氏や先輩の渡辺眞作氏に対面、感激していた。



増田正幸氏と当時の思いで話をする
沖野エミ子さん（右）



安楽寺にて坊守様と沖野エミ子さん
左から2人め。

④ しめ縄づくり（寿永会、小河内小学校）

12月18日、小河内寿永会と小河内小学校との恒例行事のしめ縄づくりを小河内集会所で行われ、児童全員と先生が参加して小河内小学校最後のしめ縄づくりが行われた。立派なしめ縄ができました。指導された寿永会の皆さん、ありがとうございました。



⑤ とんど焼き

1月11日、冬の風物詩「とんど焼き」が行われ、住民約60名が参加、点火された火が勢いよく空まで舞い上がり、無病息災、五穀豊穡を祈った、その後子ども会のお母さん方が用意したおにぎりやトン汁、ぜんざい、増野さんから提供された猪肉をいただきました。



約60本の孟宗竹で組み立てた「とんど」を前で記念撮影

⑥ 資源ごみ回収（自治会連合会）

小河内自治会連合会は下記業者と契約、資源ごみの販売代金を収入としています。その年の相場にも依りますが年々収入が増えています。住民の皆様、自治会のご協力にお礼を申し上げ、引き続きよろしくお願い致します。

- ・ 契約業者・・・株式会社第一山陽
- ・ 回収する資源ごみ・・・新聞、ダンボール、雑誌、アルミ缶
(ビン類、スチール缶、ガラス、衣類等は収集していない)
- ・ 回収日・・・毎月第3土曜日（年間10回、但し1月、2月は休み）
- ・ 販売代金・・・小河内自治会連合会の会計収入

24年度	26,970円	(総収入の6・2%)
25年度	29,400円	(同 6・8%)
26年度	33,685円	(同 5・1%)

⑦ 3月までの行事予定

月日（曜）	行事名	場所	主催
1月11日（日）	とんど祭り	下楓原の田んぼ	コミ協
1月1日～ 3月31日	テーマ型共同募金		自治会連合会
1月25日（日）	住民意見交換会	小河内集会所	自治会連合会
1月27日（火）	新年互礼会	小河内集会所	寿永会
1月30日（金）	ごみ不法投棄防止パト ロール	地区内	公衛協
2月13日（金）	健康教室	小河内集会所	公衛協、寿永会 体協、女性会
2月14日（土）	Oプロ理事会	小河内集会所	Oプロ
2月28日（土）	炭焼き体験	桜窯、小河内集会所	Oプロ
3月20日（金）	小河内小学校卒業式	小河内小学校	小河内小学校
3月21日（土）	地区民グラウンドゴルフ 大会	小河内小学校	体協
3月22日（日）	小河内小学校閉校式 同記念行事	小河内小学校 同	広島市教育委員会 自治会連合会
3月29日（日）	総会	小河内集会所	女性会
3月31日（火）	総会	小河内集会所	寿永会

集落の現況（自治会紹介）①

小河内地区は滝山（692m）と牛頭山（689m）の2つの高い山に囲まれた急峻な山間に19の小集落が点在、244世、479人（平成26年10月現在）が暮らしています。第1回目は小河内の中で最も過疎化が著しい横山谷集落と黒瀬集落を取材、両自治会長に現状などお聞きしました。（数字は自治会長より聞き取りしたもの）

自治会 （自治会長）	横山谷 （小田秋男）		黒瀬 （今永朝二）	
	現在	昭和15年	現在	昭和15年
自治会加入世帯	6（内地区外2）	20	4	27
人口（人）	7		6	
65歳以上（高齢率）	7（100%）		4（67%）	
一人暮らし世帯	1		2	
空き家	7		5	
現存する廃屋	1		3	



横山谷 小田自治会長



黒瀬 今永自治会長

積雪時にはタクシーも来ない、高齢者ばかりで手のつけようがない、ニッチもサッチも行かない。両自治会長の共通した思いだ。



小河内の最高峰、滝山（792m）の麓、県道から2km、空き家や耕作放棄地、過疎が著しい横山谷（左）と黒瀬の各集落。小規模超高齢化集落の象徴的存在

統計資料

平成26年度自治会加入世帯

自治会	加入世帯数
小 浜	15
宇賀井野	14
小 埜	11
黒 瀬	4
大仏溝	8
下三根	11
上三根	9
本 郷	18
下三谷	20
上三谷	8
横山谷	6
堂原河内	13
西山郷	5
明見谷	9
下楓原	12
上楓原	11
西 部	15
養 越	6
大 釘	7

合計 202

自治会加入率 82.8%

人口推移

小河内の世帯数、人口推移		
年	人口(人)	世帯数
明治21年	2,295	
41年	2,564	
大正14年	2,398	
昭和10年	2,055	
22年	2,217	
30年	2,102	
40年	1,593	
50年	1,098	
60年	973	
平成1年	891	
10年	761	
15年	686	288
20年	578	272
25年	495	249
26年	479	244

編集後記

ある方からお借りして曾根原久司著の「日本の田舎は宝の山」という本を読みました。これを読んだ感想です。小河内は市内でも1, 2を争うような過疎地ですが見方や価値観を変えれば都市住民が求めているもの（ニーズ）＝食と農、自然体験、田舎暮らし、健康や癒し、文化、伝統文化＝があります。これに企業のニーズ（CSR, 原料調達、社員福利厚生、地球温暖化対策、新規事業）を組み合わせれば、多くのビジネスチャンスがあるということです。この都市や企業の（ニーズ）と小河内の資源（シーズ）をうまく組み合わせ、コーディネートすればお互いWIN-WIN（三方良し）の関係ができます。これはこれまで農業体験やツーリズムで行っていることですが、今一元気が出ないように思います。これらの反省、見直しと企業のニーズを研究、調査してみる必要があります。（S）